

「これからプラン2008 - めざせ2018 -」から  
「これからプラン2018 - めざせ2028 -」へ

私たちは、「これからプラン2008」を作るときに以下の3つを基本的な考え方としました。

【私たちのよろこび】

みんなで楽しく、たくさんの人に喜んでもらえる企画を創り出す

【私たちが果たしたい役割】

つなぐ(文化とさまざまなものをつなぐ)

【私たちが目指す地域の姿】

市民の力でまちづくり

そして、今、新たな「これからプラン2018 - めざせ2028 -」を策定するにあたり、上の3つの基本的な考え方を踏襲するとともに、「活動の継続」を重要課題として考えました。私たちのミッションである、地域の方々と文化をつなぐ活動は、生きる喜びや希望を生み出すことにつながるといいます。それは、未来に「希望をつなぐ活動」でもあると思います。そこで、私たちは活動の継続を大切な課題と考え、これからも希望をもって取り組んでいきたいと思っています。

そのためには、「活動の継続」、「協働の継続」、「地域との連携」の3つがポイントになると考えました。詳細は以下を参照して下さい。

取り組みの意義		成果	5年後	10年後
活動の継続 ・多くの人を文化につなぐ活動は、人々の心を豊かにし、幸福度が高く住みやすい社会を築くことに貢献できる。また、そこで生まれる人と人との出会いやつながりは新しい活動を生み出す力にもなる。	内部での継承がすすむ		事業などの研修を行い、ノウハウを勉強することができている	会員間の世代を越えて一緒に企画を作っている
		方策1	文化のまちづくりセミナーを継続する	新規事業を立ち上げる
		方策2	NPOたけとよの仕組みと各担当ごとのマニュアルを作り、しっかりと勉強できる機会を作る	文化のまちづくりセミナーを継続する
	楽しく活動できる		一つ一つの事業を行うにあたって活発に意見交換ができている	事業の展開や構成について活発に意見交換ができている
		方策1	他地域の取り組みを視察し、自分たちの事業に反映する	他地域の取り組みを視察し、自分たちの事業に反映する
		方策2	担当者会議を活発に行う	事業についての情報交換を活発に行う
	新たな会員・スタッフの確保がすすむ		NPOたけとよに興味のある町民が増える	幅広い年齢の会員が現在(2018)よりも30%増えている
		方策1	NPOたけとよの紹介パンフレットの配布やアンケートを実施する	NPOたけとよの紹介パンフレットの配布やアンケートを実施する
		方策2	ちょこボラの募集や、NPOたけとよを紹介するイベントを企画する	ちょこボラの募集や、NPOたけとよを紹介するイベントを企画する
	NPOたけとよの事業の認知度が上がる		SNSなどのWeb環境を使った情報発信をこまめに行い、情報が目に入るようにする	時代に即した情報発信をこまめに行い、あらゆる人に情報が伝わるようにする
		方策1	メディア・SNSでの情報発信と紹介映像を作る	時代に即した情報発信を工夫し、紹介映像を更新する
		方策2	ゆめプラスを充実させる	ゆめプラスをはじめ効果的に情報を伝える
資金を確保する		・助成金の申請に努力する ・企業賛助会員が10社を超える	・助成金の申請に努力する ・企業賛助会員が10社を超える	
	方策1	助成金の情報を積極的に集める	助成金の情報を積極的に集める	
	方策2	優良団体としての活動を継続する	優良団体としての活動を継続する	
	方策3	チラシに賛助会員の企業名を入れる	賛助会員の企業名を時代に即した方法で広報する	
	方策4	企業と協賛した企画の冠に企業名を入れる	企業と協賛した企画の冠に企業名を入れる	

	取り組みの意義	成果	5年後	10年後
協働の継続	<p>・地域の文化力の向上は行政の大きな役割の一つで、その効果的な取り組みには地域住民との協働が有効であり、その継続は地域の文化向上に大きな力となる。</p> <p>・文化力の向上を目的とした取り組みは、様々な分野や関係者との関わりが不可欠である。縦割りに陥りやすい行政に、総合的で横断的な取り組みが求められるとともに、行政と住民との協働では、両者の話し合いも求められ、行政がより地域に開かれたものへと変革する手助けとなる。</p>	ゆめプラの情報の見える化でNPOたけとよの事業への理解が深まる	役場で日常的にゆめプラの情報に触れることができるようになっている	役場で日常的にゆめプラの情報に触れることができるようになっている
		方策1	役場でアウトリーチをする	役場でアウトリーチをする
		方策2	ゆめプラの実績を報告する場を作る	ゆめプラの実績を報告する場を作る
		方策3	町職員がゆめプラの情報を得やすくする	町職員がゆめプラの情報を得やすくする
		方策4	保育園、小中学校のアウトリーチを継続する	保育園、小中学校のアウトリーチを継続する
行政と地域がまちづくりについて共に考える姿勢が、多様な場面でみられる	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化創造プラン改定に参画する。</li> <li>武豊町の教育委員会以外の課とも連携事業をおこなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化創造プラン改定に参画する。</li> <li>武豊町の教育委員会以外の課とも連携事業をおこなっている</li> </ul>		
方策1	継続的なまちづくりセミナーの実施	継続的なまちづくりセミナーの実施		
方策2	行政職員と共に事業を企画する	行政職員と共に事業を企画する		

	取り組みの意義	成果	5年後	10年後
地域との連携の推進	<p>・地域との連携を進めることは、住民自身の手で文化力の向上に取り組むことに大きく役立つ。また、活動に参加する人が増えることで、地域の活性化が進み、さらに住みよい地域を生み出すことにつながる。</p>	地域の住民が直接事業に関わることができ、ゆめプラをより身近に感じている	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人たちと一緒に企画したり、事業を行っている</li> <li>専門家と地域の人が出会える場がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人たちと一緒に企画したり、事業を行っている</li> <li>専門家と地域の人が出会える場がある</li> </ul>
		方策1	気軽に参加できるシステム(リレーコンサートやボランティア登録など)で理解を得る	気軽に参加できるシステム(リレーコンサートやボランティア登録など)で理解を得る
		方策2	アートマネジメント講座(事業の企画から実施まで)を実施する	アートマネジメント講座(事業の企画から実施まで)を実施する
		方策3	地域のニーズをつかむ(小中高学校アンケート、保護者アンケート、学校の先生アンケート)	地域のニーズをつかむ(小中高学校アンケート、保護者アンケート、学校の先生アンケート)
		企業との連携が深まる	サイエンストークの継続	サイエンストークの継続
方策1	サイエンストーク参加企業を増やす	サイエンストーク参加企業を増やす		
方策2	サイエンストークに参加した企業のPRを考える	サイエンストークに参加した企業のPRを考える		

\* 文化力:文化の持つ、人々に元気を与え地域社会を活性化させて、魅力ある社会づくりを推進する力(文化庁HPより)